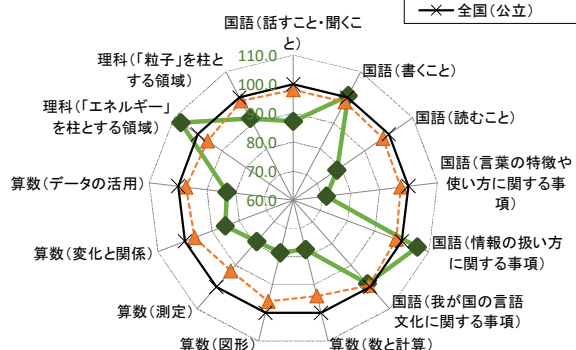


○ 教科に関する調査の状況

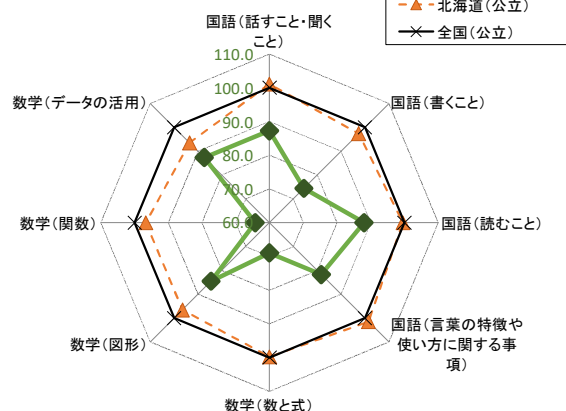
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校



中学校

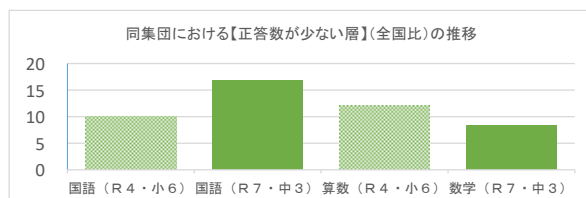
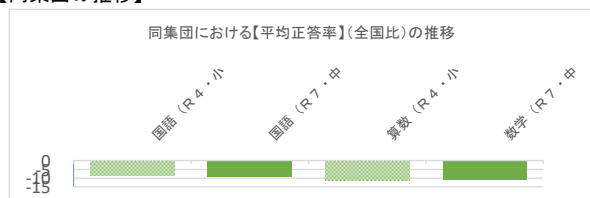


【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

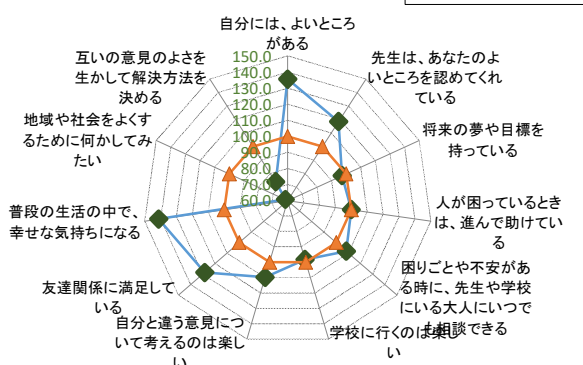
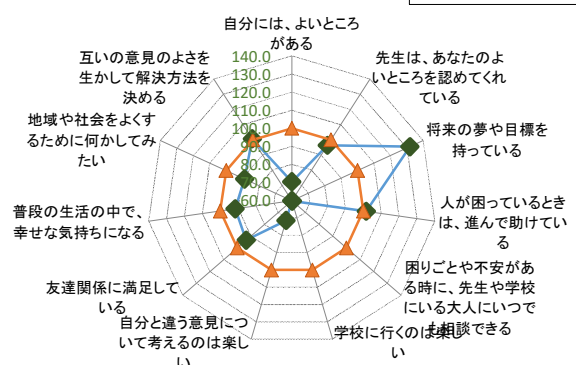
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
佐呂間町	59	45	55	45	37	448
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【同集団の推移】

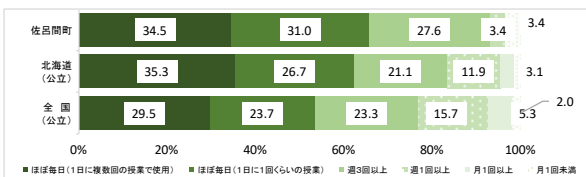
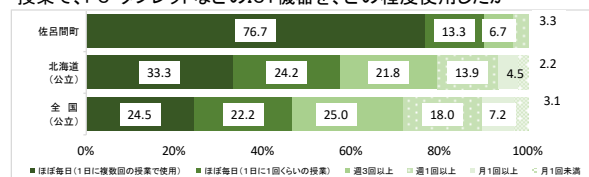


○ 質問調査の状況

- ・ウェルビーイングに関連する主観的指標



- ・授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか



【上記の結果と考えられる要因分析】

本町では、各種施策を通してウェルビーイングの向上に取り組んでいる。ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じている。

教科に関する調査では、平均正答率が全国を下回っている。要因の一つとして、全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合が全国よりも高いことが考えられる。また、平均正答率を同集団で比較すると、小学校時の全国差と中学校時の全国差がほぼ同様であることから、学年間ではもとより、校種間においても児童生徒の実態に基づく、継続的な検証改善サイクルを確立し、個別最適な学びの実現につなげる必要がある。

質問調査では、中学校でウェルビーイングに関連する主観的指標に関わる項目が全国を上回る傾向にある。この集団(R7・中3)は、小学校6年次も同様の傾向であったことから、各集団の良さと課題に基づき、教育活動の質の充実を図る必要がある。授業で、ICT機器を活用する割合が全国を大きく上回る本町の教員の高い意識によりこうした取組は実現可能と考えられる。

本町の施策の方向性: 小中一貫教育を通した、ウェルビーイングの向上